



さくらちるひとひらびつといふ無数	千田 百里
つばめ来る流線型を鎧とし	辻 美奈子
歳月を奪ひ去らむと野火走る	峰崎 成規
朧夜の月に海引く力あり	林 昭太郎
踏青や身ぬちに鎧ふもの捨てて	栗原 公子
百体の雛や百のかなしみも	大沢美智子
卒業歌二番は顔を上に向け	福島 茂
霾ぐもり軽石にある火の記憶	甲州 千草
生きるとは変化すること梅古木	内山 花葉
もどしたき日月杳と霜の声	吉田 政江
獵期果つ置いてきぼりのやうな駅	井原 美鳥
水牛の日永を引いていく浅瀬	平松うさぎ
あたたかや植ゑ替へてゐる花時計	田所 節子
石鱈玉大きく育て不登校	兵藤 恵
古本の値札に値札二月尽	稗田 寿明
薄氷を押しして大空傾かす	川高郷之助
凍滝の神様がんじ搦めかな	七田 文子
夜寒かなこのみづうみに湖賊とは	栗坪 和子
翼なきものにもやさし春の風	菅原 健一
剪定の思案ととのふ空鋏	澤田 英紀
やはやはと波立ち葦の角ほぐす	大橋 松枝
菜の花や齧送りめく久留里線	清水佑実子
集まりてこそその力や花菜の黄	荒井千瑳子
鍬入るる土やはらかき雨水かな	小坂 尚子
室の独活白き炎の匂ひ立つ	広海あぐり
蝌蚪生る池に浸けある厩栓棒	大久保志遼
永き日のそれぞれ部屋にちがふこと	久間 早苗
損耗と呼ぼるる戦死冬ざるる	坂井 博
棒を持って追ひしかの日の走り野火	久礼 隆志
薄氷に鴨の踏破の冒険図	吉村さよ子

沖 の 水 脈

